

訪れたいまち

石川県小松市



小松市

石川県

歩けば歩くほど、新しい発見が待っている
歴史に住まうまち：こまつ

高橋治が小説『紺青の鈴』で「振り返ると、小松の方向が一望に見える。荒れ川で名高い手取川が蛇行し、その河口から、時の関守、富樫左衛門尉が弁慶、義経の主従を見逃してやったという安宅の関の方角に、深い松林がのび、その先に日本海がひらける。海に至るまでの間は、小松の市街以外眼をさえぎるものもない加賀平野の広がりだった。」と表した加賀平野。その加賀平野の中央に位置する小松市。

市街地の形成と歴史あるまちなみの保存

前田利常治世までに寺院が郊外から集積され、小松城、北国街道の整備による町割りが形成。以降、現在の小松市の市街地はほぼ当時のまま残る。

小松市は平成14年の「美しいこまつ」の景観を守り育てるまちづくり条例を景観まちづくりの第一歩とし、平成21年に「小松市景観条例」、22年に「小松市景観計画」を



中田担当課長

次々に打ち出した。「昭和5年、7年の大火で従前の町家は壊滅し、伝統工法

で再建された日本でも珍しい高町家が小松には高い集積率で残っている（小松市技術監理課中田吉彦担当課長）。

同じころ小松高校に20年ぶりに復活した郷土研究同好会。「平成22年の石川県高等学校文化連盟郷土部研究報告で『こまつ町家の研究』が優秀賞を受けた」「小松高校竹中隆司教諭。「北国街道は彦根から高田まで福井、金沢、富山の主要地を経由する重要な街道。町家もまちなみも地域ごとに特色がある」（小松高校3年中田隆介君。「高校のある小松城は、梯川から水を引いて周囲を泥状にして城を守るため小松のまちの標高は3m程度しかない」（小松高校3年花井良君）。

市が取り組む前から町家再生を言い出し町家認定0号といつべき滝本莫庵店の滝本順平さんは、「銅器鑄造における江戸時代初期の名工滝本石見の弟が豊屋。それで莫庵屋だが、時代時代に順応しないと廃れる。今は、東南アジアから民芸品も買



竹中教諭



花井君(左)、中田君(右)

子どもも大満足!
クルマ好きには
もう たまらない

市街地南方約5kmに立地する日本最大級の「日本自動車博物館」。黎明期から戦後まで、走行可能な自動車を常時500台以上展示。ダイアナ妃がご来日の際、乗車されたロールスロイス「シルバースパー-II」も。写真は小松製作所昭和35年製作の農耕作業用軽自動車「小松農民車」



⑦大垣山勸帰寺…親鸞聖人と顕如上人の影
像軸「群中御影」(小松市指定文化財)を保管



⑥永龍山建聖寺…北枝(小松出身)作
「芭蕉木造」を保存。運んだ筈も残る



①土居原ボンネット広場…489系特急型電車「ワハ489-501」を静態保存



②こまつの杜…エレクトリックダン
プ「930E」を常設
展示。試乗可能。
小学生未満は大
人同伴のこと



⑧ピリカ



「こまつ町家認定」
された町家



⑨長保屋茶舗



⑩とら屋陶器店



⑪町家かふえぎやるり安穩



⑫美術品広岡



⑬滝本真座店



⑭松葉屋



⑤こまつ曳山交流館みよっさ…こまつ歌舞伎
未来塾は塾生を募集中



③れんが花道通り…「都市計画
道路小松駅前線」道路拡幅、電柱
地中化、歩道新設、イベント広場を
整備



④サイエンスヒルズこまつ…平成26年3月
全館オープン。直径16mのドーム型3Dシア
ター「3Dスタジオ」は日本最新。必見



滝本さん

「こまつ町家認定」された町家の改修を行う
た長保屋さん。「うちは茶一筋360年。で
も、はやる茶は製茶の環境が変わることに
より年ごとに変わる。そのため独自の技術
手法と技術改良が必須。それ
を見極め、実行し最も必要と
される茶を提供する」(長保
屋茶舗12代長谷部英夫さん)。



長谷部さん



大宮町内会長

さまざまな人が別々にがんばっていた
まちづくり。「今までこういう機会がな
かった。市役所の人、町家に住む人、私
たち高校生。話を聞けて大変勉強になら
う。」(小松市龍助
町町内会大宮睦
夫会長)。

平成26年2月にまちづくり協議会を設立。
官民一体で、こまつ町家の保存と無電柱化
の検討を行っている
町内会大宮睦
夫会長。

た(花井君)。

また、同じく町家認定を受けた町家かふえ・ぎやより安穩女将山岸真実さんは、「小松では普通に使っていた家財道具が財産。それを活かせば魅力は倍増する。埼玉出身の私は、よそ者かも知れないが、だからこそ小松のいいところが解かる」と語る。

町家再生によるまちづくりは今後化学反応を起(こ)そつである。

新しい小松と伝統が融合

小松駅と駅の東は、連続立体交差事業、土地区画整理事業による整備で都市機能が充実した新しいまちとなっている。

古くから絹織物の「小松縮子」、「小松縮緬」、産物の「丸谷焼」、い草畳の「小松表」という伝統産業。かたや、「マツのブルドーザー」、ジェイ・バスの「観光バス」という機械工業。「そつ」のつくりを子どものうちに体験させ未来の創造力を育むステージ(ひとものづくり)科学館西村章課長として社会資本整備総合交付金で市が整備した「サイエンスヒルズこまつ」。



西村課長

「好奇心を全開にして科学を遊んでほしい(西村課長)。



わくわくコマツ館 道内館長(左)

小松工場跡地に整備された人材育成ゾーンの「こまつ杜」。「こまつ杜の緑地の整備は「マツOBのボランティア。小松に新幹線が止まるころには駅前に緑の森を出現させたい(わくわくコマツ館道内信之館長)。

石川県もこれに合わせ小松駅から西に街路事業によるれんが花道通りを整備。通りの中ごろには同様に交付金で市が交流施設として整備した「こまつ曳山交流館みよつこ」がある。小松では豪華絢爛な曳山を舞台としたごま歌舞伎が250年もの間演じられている。「みよつこは町衆の要望を受けお旅まつりでしか目にする事ができなかった曳山を常時2基展示し、内1基は360度回転しやすべてがご覧いただけます(こまつ曳山交流館みよつこ橘雅江館長)。

ふるいもの、あたらしいものが同時に存在し、成長する、小松はそれが体感できる。

わくわく

冒頭に紹介した「紺青の鈴」。小松を訪れるまでなんの違和感もなかった。「手取川」が「梯川」であればしっくりいくのだけわい。



小松天満宮神門 (国重要文化財)



15 小松天満宮本殿 (国重要文化財)



16 小松大橋…「都市計画道路根上小松線」街路事業で整備



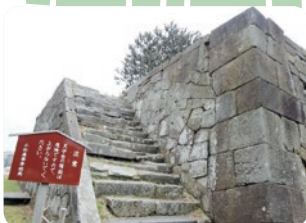
17 大川町やわらぎ街道…「まちづくり協定」による北国街道の面影を創出



社会資本整備総合交付金

地方公共団体向け個別補助金を一つの交付金に原則一括し、自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として平成22年度に創設。

活力創出、水の安全・安心、市街地整備、地域住宅支援といった政策目的を実現するため、地方公共団体が作成した社会資本整備総合計画に基づき、目標実現のため社会資本整備等を総合的・一体的に支援。



18 小松城天守台…小松高校の敷地内にある

MLIT レポート 石川県

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介!



Reporter
金沢河川国道事務所
調査第一課長
谷口 和哉

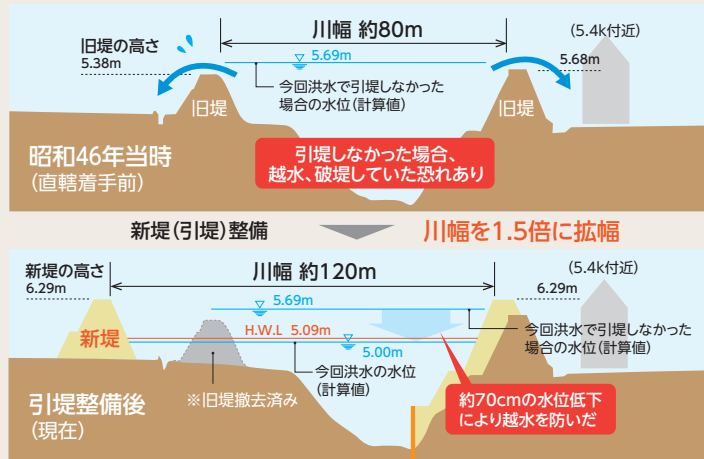


1. 河川の状況

梯川は、小松市の鈴ヶ岳に源を發し、手取川と梯川とによって形成された扇状地を西に蛇行しながら、小松市街地を貫流し、河口付近で木場潟より流れる前川が南より合流して、「勸進帳」で名高い安宅の関近くで日本海へ注ぎます。幹川流路延長は42km、流域面積は271km²の一級河川で、流域の大半は小松市です。

2. 梯川治水の歴史

梯川における治水の歴史は古く、天正時代から始まり、藩政時代も改修が行われていました。昭和34年8月には戦後最大の出水となり、梯川の堤防が決壊、さらに昭和43年8月、梯川本川の決壊こそはまぬがれましたが、八丁川、鍋谷川などの支川堤防が決壊しました。これを契機として、昭



平成25年7月出水での改修効果

和46年に級河川に指定され、河口から御茶用水頭首上流までの区間を国土交通省(当時の建設省)が河川改修を行うこととなりました。梯川の改修方式は、引堤と河道掘削を中心とした改修により川幅を拡げ、洪水を流す能力を増やし、安全に日本海へ流すこととしています。平成25年7月にも埴田水位観

測所において計画高水位である5.24mにあと1cmとせまる5.23m(既往最大水位)となる大きな出水がありました。場所によっては計画高水位を超える状態となり、一時沿川小松市・能美市の住民6210世帯、1万8177人に避難勧告、指示が発令される状態となりましたが、下流部の引堤による改修によって、越水などによる破堤は発生しませんでした。

3. 分水路計画

小松天満宮は、前田利常が小松城に隠居後、祖先神として崇拜する菅原道真を祭る北野天満宮を模して明暦3年(1657)に創建しました。江戸時代初期の優



分水路改修事業

た建築様式を今に伝えます。梯川は100年に1回の確率で発生する洪水を安全に流すため改修計画が進められています。一方、小松天満宮は小松市の成り立ちにかかわる歴史・文化的シンボルであり、国の重要文化財に指定された貴重な文化的遺産です。そのため天満宮を核とした地域づくりの要請や、その歴史・文化的価値の重要性を勘案し、現位置に保存する分水路方式による河川改修が決定し、平成28年度分水路通水に向け、現在鋭意施工中です。今後は、白江大橋より上流区間の引堤による改修を促進し、さらなる安全度向上を図っていきます。



分水路イメージ図。国の重要文化財に指定された小松天満宮(中央)を保存することを目的とした改修を実施